

第11章 人づくり・環境学習等

第1節 人づくりの推進

1 ESD ユネスコ世界会議の開催

2014年(平成26年)11月10日から12日まで、国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)及び日本政府の主催で、「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」が開催されました。この会議は、「国連ESDの10年」における各国のESDの取組の成果の共有を図り、2014年以降の方策を議論する大変重要な国際会議でした。

この地域は、愛知万博やCOP10の開催を通じ、「持続可能な社会」の大切さに対する意識が高い地域です。開催地元として、名古屋市や地元経済界、教育機関等とESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会(以下「支援実行委員会」という。)を設立し、「会議支援」「あいち・なごやの魅力発信」「ESDの普及啓発」「ESDの取組促進」の4つの柱で、ESDユネスコ世界会議を全力でサポートしました。

【ESDとは】

Education for Sustainable Developmentの略で、「持続可能な社会を支える担い手づくり」のことで、国連などが中心となって世界中で進められている取組で、環境、貧困、人権、平和など人類を取り巻く様々な課題を自らの問題とし、環境・社会・経済を統合的かつ総合的に捉え、持続可能な社会の実現に向けて行動できる人を育てる取組です。

ESDユネスコ世界会議では、153カ国・地域から76名の閣僚級を始め政府代表や教育関係者などを中心に1,000名以上のESD関係者が集まり、「国連ESDの10年」の活動を振り返るとともに、2014年(平成26年)以降の方策などについて話し合われました。

皇太子同妃両殿下が御臨席された開会全体会合を皮切りに、3日間の会期中、4回の全体会

合、34のワークショップ、25のサイドイベントが催されるとともに、多様なステークホルダーによる取組がブース展示されました。閉会全体会合では、これまでの10年間の成果や本会議及び前週の岡山市でのステークホルダー会合の審議を踏まえ、「あいち・なごや宣言」が採択されたほか、ESD あいち・なごや子ども会議の参加者から、メッセージが発表されました。

【ESDユネスコ世界会議の概要】

- 名 称：持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議
(UNESCO World Conference on Education for Sustainable Development)
- 主 催：国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)、日本政府
- 開催期間： 014年11月10日(月)から12日(水)まで
ハイレベル円卓会議、全体会合等
※ 11月13日(木)には、日本国内の関係者による
フォローアップ会合を開催
- 会 場：名古屋国際会議場(名古屋市熱田区)
- 参加人数：153カ国・地域から76名の閣僚級、ユネスコ加盟国の
政府代表、NGO、大学関係者、民間部門、国連機関、専門家、ユース世界会議代表等を含む1,000名以上が参加



全体会合の様子

【あいち・なごや宣言（要約）】

- 2014年11月10日から12日まで愛知県名古屋市中で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」の参加者である我々は、持続可能な開発に関する経済、社会、環境分野のバランスの取れた統合ができるようにこの宣言を採択し、持続可能な開発のため教育（ESD）の更なる強化と拡大のための緊急の行動を求める。
- この宣言は、国連ESDの10年（2005～2014）の成果、ESDユネスコ世界会議及び岡山市で開催されたステークホルダーの主たる会合、さらにその他の関連イベントや協議プロセスの審議に基づく。
- 我々はESDユネスコ世界会議の開催国である日本政府に心から感謝する。

- 1 国連ESDの10年の多大なる功績を祝し、
- 2 国連ESDの10年の実施に積極的に参加した多くの政府、国連機関、非政府組織、教育機関・組織、学校の教育者と学習者、地域と現場、ユース、科学コミュニティ、学術界、その他のステークホルダー、同10年の主導機関であるユネスコに感謝し、
- 3 リオ+20の成果文書「我々が望む未来」に含まれるESDの国際的なコミットメントを想起し、
- 4 グローバル・アクション・プログラム（GAP）が、教育、訓練、学習の全てのレベル及び分野においてESDの行動の導入、拡大を目指していることに留意し、
- 5 ESDを持続可能な開発の実施のための極めて重要な方法として再確認し、
- 6 包括的な質の高い教育と生涯学習に不可欠で、変化させる力を持つ要素として、また持続可能な開発を可能にするものとしてESDの国際的な認知の高まりを歓迎し、
- 7 ユネスコ/日本ESD賞の創設を評価し、

我々参加者は、

- 8 学習者自身及び学習者が暮らす社会を変容させる力を与えるESDの可能性を重要視し、
- 9 ESDは、先進国と発展途上国の両方が貧困撲滅、不平等の縮小、環境保護、経済成長のための努力の強化に取り組む機会であり、責任であることを強調し、
- 10 ESDの実践は、文化、平和、伝統知、先住民の英知、人権、男女平等、民主主義、社会主義のような普遍的原則とともに、地元、国内、地域、世界の文脈を十分に考慮すべきであることを強調し、
- 11 関係する全てのステークホルダーが表明したESDへの参加に感謝し、
- 12 包括的な質の高い教育及び生涯学習をとおして、GAP開始のモメンタムの構築及び維持を約束し、
- 13 関係する全てのステークホルダーが、相乗的な方法で、a) 明確なゴールを設定し、b) 活動を開発、支援、実施し、c) 経験を共有するためのプラットフォームを構築し、d) GAPの五つの優先行動分野におけるモニタリング及び評価の方法を強化するよう求め、
- 14 全ての関係するステークホルダーが、ユースをキーとなるステークホルダーとして尊重しながら、部門や分野の境界を越えて共同的で可変的な知識の生産、普及、活用、イノベーションの促進に従事するよう促進し、
- 15 ユネスコ加盟国の政府に以下のような更なる取組を求める。
 - a) 教育、訓練、及び持続可能な開発政策へのESDの統合を強化し、教育、訓練、職能開発が十分にESDを取り入れることを確保し、
 - b) 政策を行動に移すために実質的な資源を配分、結集し、
 - c) 第一にESDを教育の目標として残し、第二に世界会議（2014）の成果を世界教育フォーラム（2015）において考慮されるよう保証することでポスト2015年アジェンダ及びそのフォローアッププロセスにESDを反映、強化させる。
- 16 ユネスコ事務局長に以下のことを求める。
 - a) 政府、他の国連機関、開発パートナー、民間企業、市民社会と協力し、ESDのグローバルリーダーシップを提供し、政策の共同作用を支援し、ESDに関するコミュニケーションを円滑化し、
 - b) ESDを実施するための新たなモメンタムを構築し、パートナーシップを活用し、ユネスコスクール、ユネスコチェア、ユネスコが支援するセンター、生物圏保存地域及び世界遺産の国際ネットワークなどのネットワークを活用、動員し、
 - c) ESDの資金を含む適切な方策を保証する重要性を支援する。

2 ESD ユネスコ世界会議に向けた開催地元の取組

県は、ESD ユネスコ世界会議の成功に寄与するため、支援実行委員会の一員として、ESD ユネスコ世界会議の安全・安心な運営と会議参加者の快適な滞在等に係る様々な取組を行いました。

(1) 会議支援

主催者（ユネスコ・日本政府）、地元関係機関などと連携・協力しながら、万全の体制で支援しました。



輸送支援（ユネスコ事務局長車）

(2) あいち・なごやの魅力発信

ESD ユネスコ世界会議を契機として、地域の多様な魅力を世界の人々に体感していただくとともに、国内外に向けての発信を積極的に行いました。

公式歓迎行事	会議参加者に歓迎の意を表すためのレセプションを開催し、地元の食文化（なごやめし等）をPRした。 ※ 11月10日 名古屋国際会議場
おもてなし交流エリア	会場内（イベントホール）で、地元のPR、ESDの取組のパネル展示・呈茶サービス等を実施した。
歓迎装飾	会議参加者に歓迎の意を表すためのバナーを主要駅・空港等に設置したほか、テレビ塔のライトアップ装飾を実施した。
ボランティア	語学堪能なボランティア147名を配置し、会議参加者へのサポート（交通案内・会議運営補助等）を行った。
エクスカーション	会議参加者があいち・なごやの伝統・産業技術・ESDの取組などを体験・体感する視察旅行を13コース実施し、412名が参加した。

地元情報の提供	会場内に情報発信カウンターを設置し、地元ガイドブックや観光パンフレットを配布した。
---------	---



地元主催歓迎レセプション

(3) ESDの普及啓発

県及び支援実行委員会では、啓発イベントの開催、SKE48メンバー7名のESD あいち・なごや広報大使任命、ESD 愛・地球プロジェクトの展開、展示会等への出展、広報ツールによる普及啓発等により、ESDに対する理解の浸透と、ESD ユネスコ世界会議の開催機運の醸成を図りました。

ア ESD イヤーキックオフイベントの開催

支援実行委員会では、ESD ユネスコ世界会議が開催される平成26年をESD イヤーと位置づけ、県内各地でのPR活動や節目毎の記念イベントの開催などを通じて、会議の周知とESDの取組をより一層促進することとし、その幕開けを飾るキックオフイベントを開催しました。

イ 開催半年前イベントの開催

支援実行委員会では、会議開催地としての機運の盛り上げと、ESDの普及啓発のため、平成26年5月から6月にかけて、県内3カ所（名古屋、尾張、三河）で開催半年前イベント「あいち・なごやESDフェスタ2014」を開催しました。



あいち・なごやESDフェスタ2014 in 名古屋

ウ ESD あいち・なごや広報大使の任命

県では、ESD ユネスコ世界会議開催を広く県民にアピールするため、地元人気アイドルグループ SKE48 のメンバー7名（須田亜香里さん、柴田阿弥さん、梅本まどかさん、木本花音さん、古畑奈和さん、東李苑さん、山田みずほさん）を「ESD あいち・なごや広報大使」に任命し、各種啓発資材（チラシ、パンフレット、ノベルティ等）、各種メディアなどでESD をPRしていただきました。



広報大使の等身大パネル

エ ESD 愛・地球プロジェクトの展開

県では、ESD PR キッズユニット「sweet magic」^{スイートマジック}や ESD PR 隊「ESD LOVEARTH」^{ラブアース}を組織し、市町村イベントでのパフォーマンス、学校訪問、市町村長への表敬訪問等を通じて PR 活動を行う「ESD 愛・地球プロジェクト」を展開しました（平成 26 年 5 月から 11 月まで）。



ESD PR キッズユニット「sweet magic」

オ ESD企業セミナーの開催

支援実行委員会では、ESD ユネスコ世界会議開催を契機として企業と ESD との関連を意識づけるため、企業向けの ESD に係るセミナーをメッセナゴヤ 2014（平成 26 年 11 月 5 日～8 日、ポートメッセなごや）と連携して実施しました。



ESD 企業セミナー

カ 広報ツールによる普及啓発等

支援実行委員会では、ポスター、新聞広告、ウェブサイト等各種広報媒体を活用するとともに、県内の多様な主体とも連携しながら、ESD ユネスコ世界会議の開催や ESD について広く周知を行いました。

（4）ESD の取組促進

支援実行委員会は、会議開催を契機として、NPO、教育関係者、企業、行政機関など、地域の多様な主体と連携しながら、持続可能な社会づくりに向けた取組をさらに進めました。

ア ESD あいち・なごやパートナーシップ事業

支援実行委員会は、会議開催の PR や ESD の普及促進に、支援実行委員会と一緒に取り組み、会議を盛り上げていただく事業・イベントを登録する「ESD あいち・なごやパートナーシップ事業」により、NPO、企業、行政機関など、多様な主体による 580 件の ESD の取組を促進しました。

イ 県（ESD 会議支援室）の取組

県全体で ESD の取組を促進するため、平成 26 年度には、持続可能な地域づくりとその担い手づくりを考える「あいち ESD シンポジウム」を開催し、県内 6 市における関連事業の取組発表、人づくりをテーマとした古田敦也氏（元東京ヤクルトスワローズ監督）の講演等を行いました。



あいち ESD シンポジウム古田敦也氏スペシャルトーク

ウ あいち・なごやのESD交流・発信の場（併催イベント）の開催

支援実行委員会では、会議開催に併せ、日本政府や自治体、NPO、NGO、学術機関、企業など、ESDに取り組む多様な主体が集い、交流し、発信する場を提供するため、名古屋・栄地区、名古屋国際会議場及びその周辺の白鳥地区において、併催イベントを開催しました。



ESD 交流セミナー（名古屋国際会議場）の様子

エ ESD あいち・なごや子ども会議の開催

支援実行委員会では、会議開催に併せて、県内の子どもたちが中心となり、持続可能な社会づくりについて学び、話し合う、子ども会議を開催しました。

子ども会議には、県内 65 校から 121 名が参加し、エクスカージョン（現地学習）で県内各地の現状や課題について学習し、その後、グループ討議で持続可能な社会づくりに向けた方策を話し合い、最後に全体会議において、話し合った内容のとりまとめを行いました。

このとりまとめた内容については、子ども会議からのメッセージとして、ESD ユネスコ世界会議の閉会全体会合において発表しました。

ESD あいち・なごや子ども会議からのメッセージ（抜粋）

ここで、子ども会議から、大人の方々に、次のことを提案します。

- ・戦争をしないでください。武力で解決しないでください。
- ・世界の人々が協力して、どの国の人も教育が受けられる環境をつくってください。
- ・子ども会議のような、学び、考え、話せる場をもっとつくってください。大人も ESD に興味を持って参加してください。
- ・知識も経験もある大人が、現状や未来に伝えたいことをもっと私たちに教えてください。
- ・多くの人に ESD を広めてください。ESD の考え方を広めて、今ある法律を変えてください。
- ・地域の人たちともっと交流してください。
- ・未来に目を向けて考えてください。当たり前のことを大切にしてほしいのです。子どもができて大人にできないわけがないと思います。

子ども会議の私たちが考える「ESD」とは、「未来を考えて、行動すること」です。みんなが ESD の主人公となって、今、これから、未来に向かって、ESD に取り組んでいきます。

私たちは本気です。大人の方々も、本気になって ESD に取り組んでください。ESD は、この世界の未来にとって一番大切なものなのですから。



閉会全体会合におけるメッセージ発表

3 エコアクションの推進【環境政策課、環境活動推進課】

(1) あいちエコアクションの推進

県では、持続可能な社会の構築に向けて、県民や事業者などあらゆる主体が環境について学び、行動していくため、環境面で地域を支える「人づくり」に取り組んでいます。

この地域では、愛知万博、COP10、ESD ユネスコ世界会議が開催され、こうした国際的イベントの開催を通して培われた県民の持続可能な社会に対する高い意識は、この地域独自の特徴です。

こうした県民の環境に対する意識を地域全体の行動へと広げていくため、地球にやさしい身近な環境配慮行動の実践へとつなげる「あいちエコアクション」を推進しています。

「あいちエコアクション」は、県民参加型の啓発イベントを開催するとともに、「ハードネットワーク」であるAEL^{あえる}ネットの活用、そして「ソフトネットワーク」であるウェブサイト「エコリンクあいち」の活用の両輪で推進しています。

また、ESD ユネスコ世界会議で採択された「あいち・なごや宣言」において、ユース世代への「人づくり」が重要とされています。

本県では、持続可能な未来のあいちの担い手育成「人づくり」を推進するため、日本一の産業県であるという特徴を生かし、企業と連携し、将来の担い手である学生を育成するプログラムを「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」として、平成27年度から立ち上げ、新たな「人づくり」プロジェクトを始めています。

【あいちエコアクション啓発イベント】（平成27年2月から実施）

ESD ユネスコ世界会議の開催による成果と盛り上がりを生かし、自発的なエコアクションのきっかけづくりとするため、県民参加型のイベントを開催

【ハードネットワーク】
AEL ネットを活用した
エコアクションの推進

【ソフトネットワーク】
ウェブサイト「エコリンクあいち」
による情報交流

あいちエコアクションの推進

※「エコアクション」とは エアコンの適切な温度設定、ごみの分別、公共交通機関の利用、地域の清掃活動など、日常生活の中で行う地球にやさしい身近な環境配慮行動のこと

ア あいちエコアクション啓発イベントの開催【環境政策課】

県は、多くの方にエコアクションを始めていただくきっかけとするため、県民の方が気軽に参加でき、楽しみながらエコアクションを理解でき、実践へとつなげることができるイベントを開催しています。

平成 26 年度は、ESD ユネスコ世界会議の開催を契機として、平成 27 年 2 月に「Let's エコアクション in AICHI～地球へのラブレター～」として開催しました。本イベントには、約 2 万人以上の方が来場され、ステージイベントやワークショップなどを通じて、エコアクションを楽しみながら体験していただきました。

クローズアップ

「Let's エコアクション in AICHI」を開催しました

日常生活の中で行う地球にやさしい身近な環境配慮行動「エコアクション」を県民の皆さんに取り組んでいただくきっかけとなるよう、平成 27 年 2 月 7 日(土)、8 日(日)の 2 日間、愛知芸術文化センターとオアシス 21 で「Let's エコアクション in AICHI ～地球へのラブレター～」を開催しました。

オープニングセレモニーでは、大村知事が、名古屋大須の地元アイドルグループ OS☆U の「あいちエコアクション広報部」への任命や、県民の皆さんと一緒にエコアクションに取り組む宣言などを行いました。

2 日間のイベントでは、モーニング娘。OG の石川梨華さんによるトークショー、eco 実験パフォーマーらんま先生とウルトラマンによるウルトラエコサイエンスステージ、エコ体験に関するワークショップ、究極のエコカーFCV「MIRAI」の展示などを行い、2 万人を超える方々にエコアクションについて楽しみながら体験していただきました。

また、会場では、あいちエコアクションのイメージキャラクター「あいちエコ・フェアリーⅢ」にふんしたエコスプレ隊がエコアクションへの取組を呼びかけ、このイベントのシンボル「エコアクションアース」(地球型のオブジェ)は、参加者の「エコアクション宣言」メッセージで埋め尽くされました。



オープニングセレモニー



エコ体験のワークショップ



究極のエコカーFCVの展示



参加者のエコアクション宣言とエコアクションアース

イ AEL ネットを活用したエコアクションの推進【環境活動推進課】

県内の環境学習施設のネットワークである愛知県環境学習施設等連絡協議会（AEL ネット）を活用して、県内各地で県民の皆様気軽に楽しく、「エコアクション」へと踏み出す機会を提供しています。

AEL ネットは「Aichi Environmental Learning

Network」の頭文字をとったもので、平成27年10月末現在で、157施設31市町村が加盟しており、これらの施設等では、環境全般、エネルギー、自然、ごみを減らす3R、水環境などについて学習することができます。

平成26年度はAELネット加盟施設のうち120施設等が連携し、環境学習スタンプラリーを実施し、延べ48,788人の参加がありました。

クローズアップ

あえる AEL ネット環境学習スタンプラリーを実施しています

県では、県民の皆様楽しく環境について学んでいただくため、愛知県環境学習施設等連絡協議会（愛称：AEL ネット）に加盟する民間や市町村の環境学習施設等と連携して、平成27年6月20日から平成28年2月29日まで「AEL ネット環境学習スタンプラリー」を開催しています。

スタンプラリー参加施設等への来館や自然・エネルギー・ごみ・水環境などE C Oをテーマとした講座・イベントへの参加により、スタンプを3個以上集めて応募いただくと、集めた数に応じて、抽選で図書カードなどの記念品をプレゼントします。

今年度は、スタンプラリーに参加する施設等の数が昨年度の120から148に増え、また、来館だけでもスタンプがもらえるようになり、より一層気軽に参加していただける形で実施しています。

スタンプラリーに参加された方からは、「環境について、子どもと話し合うきっかけになりました。」「学べて、かわいいスタンプも集めることが出来て、親子で楽しめました。」等の声を多くいただいております。



AEL ネット環境学習
スタンプラリースタンプ帳

クローズアップ

エコ川柳優秀作品を紹介します

県民の皆様日常生活の中で「エコアクション」に取り組むきっかけとさせていただくため、平成27年9月2日から10月16日まで「エコアクション」を題材にした川柳を募集しました。応募総数692作品をエコ川柳審査委員会（委員長：中日川柳会相談役 戸川嘉山氏）において選考し、優秀賞5作品、佳作15作品を決定しました。

これら20作品については、平成27年度の「Let's エコアクション in AICHI」の会場（アスナル金山）で紹介しました。

- ◎ 優秀賞5作品
- | | | | | |
|--------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 休みたいエアコンだって思ってる
豊田市 鳥谷 結菜さん | タオルからぞうきんになるエコ出世
大府市 山本 千尋さん | 温暖化止める気持ち越くして
安城市 久保 美智代さん | 重いネコにエコと名付けた母の知恵
尾張旭市 たまさん | 貴重にも包装されて森が消え
春日井市 三太 慶寿さん |
|--------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|

ウ あいちエコアクションポータルサイト

「エコリンクあいち」の活用【環境政策課】

県では、ESDユネスコ世界会議を契機として、県民の皆様へ、日常生活の中で地球にやさしい身近な環境配慮行動「エコアクション」に取り組んでいただく運動を推進しています。県全体にエコア

クションが広がることを目指して、様々な環境活動情報やイベント情報の発信、情報交換により活動団体の交流の輪を広げることを目的に、平成26年7月にあいちエコアクションポータルサイト「エコリンクあいち(<http://aichi-eco.com>)」を開設しました。

クローズアップ

「エコリンクあいち」でエコポイントダービーを実施しています



「あいちエコアクション広報部」であるOS☆Uをデザインした当サイトだけの限定ドニチエコきっぷがもらえるエコポイントダービーを平成27年8月1日から平成28年3月31日まで開催しています。

サイト内で、エコアクションに関する日記やイベントを投稿するなどし、エコポイントを多く獲得した上位3名の方に毎月、限定ドニチエコきっぷがプレゼントされます。



(2) 自発的な環境配慮活動の促進

ア エコマネーの地域への普及【環境活動推進課】

愛知万博をきっかけにスタートした環境通貨「EXPO エコマネー」は、県民を始め、企業やNPO、行政による協働型の環境保全の取組です。公共交通機関を利用したり、環境学習・環境ボランティア活動などの環境にやさしい行動に参加すると、エコポイントが貯まり、そのポイントはエコ商品との交換や植樹・緑化事業などの寄附に使えます。「エコポイントを貯めるときも、使うときも、環境にやさしい仕組み」として多くの方々の支持を得ています。

県は、もりの学舎及びあいち海上の森センターの利用者に対してポイントを発行しています。

イ 食を通じた環境配慮活動の促進【食育推進課】

県は、「あいち食育いきいきプラン2015」(第2次愛知県食育推進計画(平成23年5月作成)以下「プラン」という。)において、「食を通じて環境に優しい暮らしを築くこと」を食育推進の柱

の一つとして設定しています。この中で、「食べ物を残さず食べるようにする」、「食べ残しや食品の廃棄を減らす」などと県民の主体的な取組を促すとともに、県や関係団体等による実践に向けた10の取組項目を掲げています。

このプランに基づき、毎年度、県、関係団体、市町村等が様々な取組を実施しており、その結果、平成18年度には35.5%であった、「むだや廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている」県民の割合が、平成26年度には45.3%に改善されました(目標は27年度50%)。

また、平成26年度の主な取組は以下の10事例であり、これらの具体的な内容については、県が作成した「2015年版あいち食育いきいきレポート」に掲載し、広く関係者に紹介しています。

【環境配慮活動の具体的取組】

○食生活における「もったいない」意識の浸透と実践(3事例)

幼稚園での給食の食べ残しを減らす工夫や、市町村による環境に優しい親子調理講座の開催



「幼稚園の給食で食べ残しを減らす取組」（知多市）

○農林水産業への理解と地産地消の一層の推進（6事例）

学校給食を通じた生産者と児童生徒の交流、大学生を対象としたファーマーズマーケットツアーの開催 ほか

○農林水産業や食品産業における環境への配慮の徹底（1事例）

GAP（農業生産工程管理）手法の導入

ウ グリーン購入の促進【環境活動推進課】

グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際に、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入することです。

グリーン購入は、消費生活など購入者自身の活動を環境にやさしいものにするだけでなく、供給側の企業に環境負荷の少ない製品の開発を促す

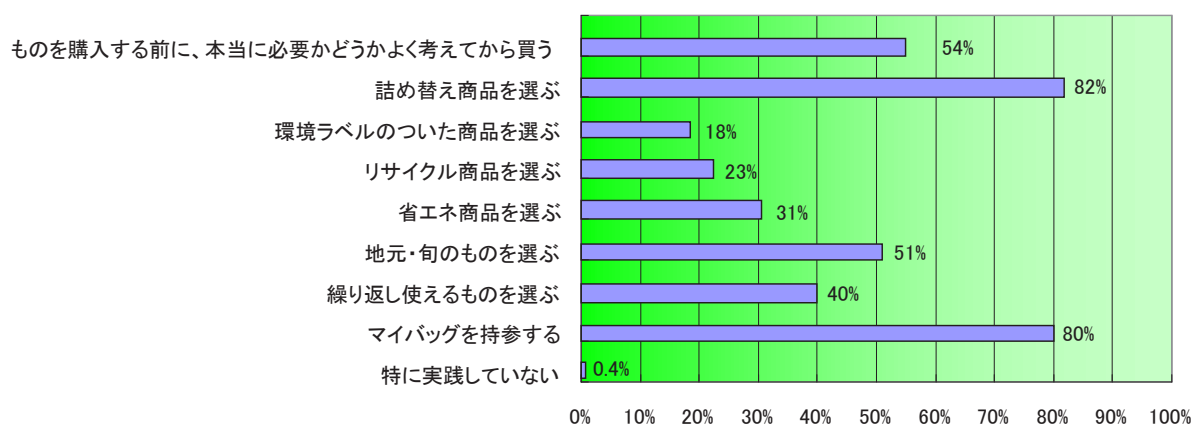
ことで、経済活動全体を変えていく可能性を持っています。

県は、岐阜県、三重県、名古屋市、環境ラベルの管理運営団体、グリーン購入の普及推進団体、スーパーマーケットやドラッグストアなどの販売店、メーカーなどと協働して、平成14年度から毎年度「東海三県一市グリーン購入キャンペーン」を実施し、グリーン購入の普及に努めています。

平成26年度は、平成26年10月15日から11月14日までの1ヶ月間をキャンペーン期間として、東海三県内の約3,900店舗とともに、以下のとおり取組を実施しました。

- ① 店舗内でのポスター等の掲示や、詰替商品、環境ラベル商品、旬のもの・地のもの等のグリーン購入対象商品を集めたコーナーの設置
- ② グリーン購入の意義や実践方法を紹介するキャンペーンイベントの実施
- ③ 協力店舗による独自イベントの実施
- ④ グリーン購入を実践した消費者に、抽選でエコ商品等が当たる懸賞応募企画の実施（応募はがきにアンケートを添付）

図 11-1-1 普段の買い物で実践している「グリーン購入」（キャンペーン参加者へのアンケート結果）



（注）平成26年10月15日～11月14日実施 （資料）東海三県一市グリーン購入キャンペーン実行委員会調べ

エ 地域環境保全委員の設置【環境活動推進課】

県は、地域における環境の状況を把握し、その保全に関する活動を推進するため、愛知県環境基

本条例第19条の規定に基づき、地域環境保全委員を委嘱しています。

委員は、地域における環境保全に関心及び知識

を有し、かつ、環境保全に関する活動に熱意を有する人の中から、市町村長の推薦を受けて知事が任命し（定員 200 人、平成 27 年 4 月 1 日現在）、それぞれが担当市町村において以下のような活動を行いました。

○地域の環境の状況調査・報告

○県が行う環境保全施策への協力・環境保全に関する啓発、指導等

○地域における環境保全のための自主的な活動への参画、指導等

○県が主催する地域環境保全連絡会議等への出席

第2節 環境学習等の推進

1 環境学習の推進【環境活動推進課】

環境問題は、私たちの暮らしや経済・社会と密接に関わっており、環境問題を解決するためには、問題の本質や取組の方法を自ら考え、解決する能力を身に付け、何よりも行動に結びつけていく環境学習が不可欠です。

このため、県は、平成 17 年 1 月に「愛知県環境学習基本方針」を策定し、「あいち環境学習プラザ」（愛知県東大手庁舎 1 階）及び「もりの学舎（まなびや）」（愛・地球博記念公園内）を拠点にして、環境学習講座などを実施してきました。

平成 24 年 10 月に「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」が施行されたことに伴い、県では平成 25 年 2 月に「愛知県環境学習等行動計画」（以下本節において「行動計画」という。）を策定し、環境学習の一層の推進に取り組んでいます。

（1）愛知県環境教育等推進協議会の開催

県では行動計画の推進のため、学校教育及び社会教育の関係者、県民、事業者、NPO、学識経験者、行政等で構成する愛知県環境教育等推進協議会を設置しています。平成 26 年度は協議会を 2 回開催し、行動計画の推進に関する情報交換等を行いました。

【用語】愛知県環境学習等行動計画

「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」（平成 15 年法律第 130 号）第 8 条に基づき、平成 25 年 2 月に愛知県が策定したもので、「環境面で持続可能な社会を支える人づくり」を進めるため、環境学習等の取組を進めることとしている。

（2）環境学習の拠点施設での取組

ア あいち環境学習プラザ

本県の環境学習を担う拠点施設「あいち環境学習プラザ」では、簡単な実験などを交えた環境学習講座を実施するとともに、環境学習情報の収集・発信、環境学習プログラムの開発、環境学習を指導する人材の養成など各種の事業を実施しています。



あいち環境学習プラザでの講座

イ もりの学舎（まなびや）

自然体験型の環境学習施設「もりの学舎」では、愛知万博で実施されたプログラムを継承・発展し、土・日・祝日、夏休み期間等を中心に様々な環境学習プログラムを実施しています。また、県内の小学生を対象に、四季を通じて活動を行う「もりの学舎キッズクラブ」を毎年実施しています。



また、平成 23 年度から事業者と連携・協働して学習イベントを実施しており、平成 26 年度は次のとおりです。

～連携事業者名一覧～
（一社）愛知県産業廃棄物協会
（公財）愛知臨海環境整備センター
アサヒビール(株)
(株)環境科学研究所
積水ハウス(株)
（一財）東海技術センター
東邦ガス(株)
ユニー(株) (五十音順)

開館(平成 19 年 3 月)以来の入館者数は 411,615 人、プログラム参加者数は 143,492 人(平成 27 年 9 月末)となっています。

表 11-2-1 平成 26 年度「もりの学舎」事業実施状況

○プログラム参加者数：18,475 人	
内 容	参加者数
インタープリターと歩くもりのツアー 「もりコース」・「かめの池コース」 (毎週土・日・祝日、各日2回)	5,276 人
あそび工房 インタープリターによる自然素材やリサイクル素材などを使った工作教室 (GWや夏休みなどの特定日、1日2回又は3回)	2,476 人
その他の事業 もりの学舎キッズクラブ、おさんぽdeいきものみつけ、ミッションinモリコロパーク、夏・冬おやこクラフトなど (随時開催)	10,723 人

○来館者数：48,765 人	 <p>インタープリターと歩くもりのツアー (かめの池コース)</p>  <p>もりの学舎キッズクラブ</p>
----------------	---

クローズアップ

「もりの学舎☆ふれあいテラス」が完成しました!

県では、平成27年10月に開催した「インタープリター愛・地球ミーティング」にあわせ、もりの学舎に、ウッドデッキ「もりの学舎☆ふれあいテラス」を平成27年9月に設置し、インタープリターによるプログラムの実施や、来園者の休憩所などとして使用しています。中央の柱に丸太を一本まるごと使用し、木のぬくもりが感じられるようになっています。また、近くに高い樹木があり、まるで木陰の中にいるような気分になれます。

公園内のおさんぽに疲れたら、「もりの学舎☆ふれあいテラス」で一息ついてみてはいかがでしょうか。



「もりの学舎☆ふれあいテラス」

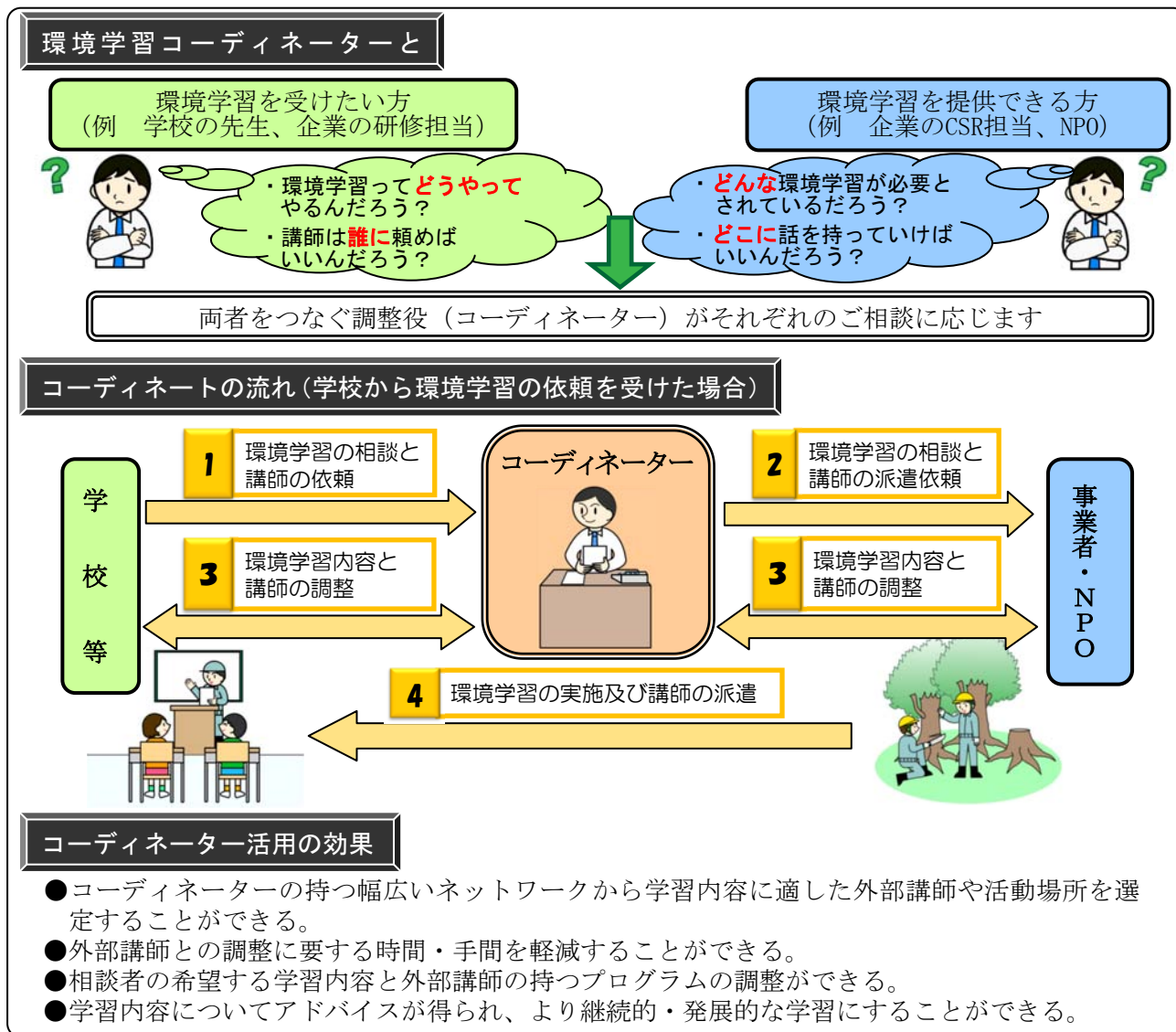
(3) 環境学習コーディネーターの活用

環境学習は、具体的な行動に結びつけていくことが重要で、そのためには、地域を教材とした自然体験や社会体験などを通して実感を持って学ぶことが非常に有効です。こういった体験型の環境学習を地域や学校等で推進するためには、地域、学校、NPO、事業者、行政等が連携・協働し、各主体のノウハウを生かしあうことが重要です。

このため、県では平成 25 年度から「環境学習コーディネーター」をあいち環境学習プラザに設置し、講師・活動場所の紹介といった相談業務や、講師と相談された方の間に入って、講義の日程や学習内容の調整などを行うコーディネート業務を実施しています。(図 11-2-1)

平成 26 年度の依頼件数は、相談業務が 16 件、コーディネート業務が 21 件でした。

図 11-2-1 環境学習コーディネーターについて



クローズアップ

環境学習コーディネーターが活躍しています

県では、環境学習を受けたい方と環境学習を提供できる方との橋渡し役を担う「環境学習コーディネーター」の相談・派遣等の窓口を、平成25年度から「あいち環境学習プラザ」に設置しています。

コーディネーターは、環境学習の内容や実施の方法、場所、講師、教材、活用する学習施設など、環境学習の実施全般についての相談に応じるとともに、必要に応じ関係者との調整を行っています。

平成26年度は、小中学校から水質調査やリサイクルの体験学習などに関する講師紹介と学習内容の調整の依頼があったほか、企業や市町村等からもESDに関する講師紹介の依頼や職員及び市民向けの環境学習講座の企画などの依頼がありました。依頼者の方からは、「とても丁寧に対応していただき、満足した」との声を多くいただいています。

県民、事業者、NPO、行政、学校等の様々な主体が各々のノウハウ等を生かしあうことで、学習の幅が広がり、学習効果が一層高まりますので、環境学習を実施する際に御活用ください。



コーディネーターを活用した授業の様子

(4) 環境学習プログラムの実施

小・中学生を始めとした県民を対象に、「あいち環境学習プラザ」「もりの学舎」等で、簡単な実験なども交えて行う体験型の環境学習講座などを実施しました。平成 26 年度は、水のごちねなどの身近な問題や地球温暖化や生物多様性などの地球環境問題をテーマに、実験や自然体験を交えた講座等を開催しました。

(5) 愛知県環境学習施設等連絡協議会の運営

県は、愛知県環境学習施設等連絡協議会（愛称：^{あえる}AELネット）を設置し、県内の環境学習施設や市町村などに参加してもらい、それぞれが保有する環境学習プログラムや指導のノウハウ等の情報を共有するなど、各施設間のネットワークづくりを進めています。

平成 26 年度は、協議会を 3 回開催し、AEL ネット環境学習スタンプラリー、ESD を踏まえた環境学習の取組等について検討しました。



AEL ネットの開催状況

(6) こどもエコクラブ活動への支援

環境省の呼びかけにより始まった「こどもエコクラブ」は、子どもたちが地域の中で楽しみながら自主的に環境活動・学習を行うクラブで、県内では、平成 26 年度末で 136 クラブ 9,065 人がリサイクル・美化活動・自然観察会など様々な活動を行っています。

県は、地方事務局としてこどもエコクラブの活動の支援を行いました。

2 学校における環境教育の推進【義務教育課、高等学校教育課、環境活動推進課】

学校教育における環境教育は、社会科（高等学校においては、地理歴史科及び公民科）、理科、生活科、家庭科（中学校においては技術・家庭科）、保健体育科等の関係教科及び道徳、総合的な学習の時間、特別活動など、それぞれの目的に即して取り上げられています。

県で行っている環境教育の指導方針は、次のとおりです。

- 環境問題に関心をもたせ、環境の保全やよりよい環境の創造のために主体的に取り組む態度と能力を育てる。
- 自然とふれあう機会を多くもたせ、豊かな感受性や創造性を育てる。さらに、身近な事象の中から問題を見付け、意欲的に問題を解決していこうとする態度と能力を育てる。
- 自然環境の状況は、地域によって異なるため、地域の実態に合った身近な問題を取り上げ、具体的な活動を通して学習できるように工夫する。さらに、生涯学習として発展させていくために、学校、家庭、地域社会との連携の中で継続して展開していく。

平成 26 年度は、学校における環境教育の推進を図るため、次の事業などを実施しました（表 11-2-2）。



平成 26 年度版環境学習副読本「わたしたちと環境」

表 11-2-2 学校における環境教育推進事業例（平成 26 年度）

事業	内容
環境学習副読本の作成・配付	県内の小学校の4年生に対し、環境学習副読本「わたしたちと環境」を作成・配付（名古屋市立は各校1冊配付）
心の教育推進活動の実施	県内の小・中学校において、家庭・地域との連携を基盤に、環境保護、自然とのふれあい、奉仕、福祉等の体験を重視した教育活動を実施
あいちグリーンウェイブ運動	県内の全小・中学校において、5月22日の国際生物多様性の日を中心に、ドングリの植樹・水やり、植樹や生物多様性にかかわる講話、必要に応じたイベントなどを実施

（資料）環境部・教育委員会調べ

3 環境月間行事の実施【環境活動推進課】

1972年（昭和47年）6月5日から2週間、スウェーデンのストックホルムで国連人間環境会議が開催されたことから、国連は6月5日を「世界環境デー」と定め、日本でも環境基本法により「環境の日」と定めています。

また、環境省の主唱により、平成3年度から、毎年6月の1か月間を「環境月間」（昭和48年度から平成2年度までは6月5日を初日とする週間を「環境週間」としていました。）とし、環境問題の重要性を認識するとともに将来に向かってよりよい環境を創出するための努力と決意を新たにする機会として、各種の記念行事を実施しています。

県においても、毎年、環境月間に各種の行事を実施しており、平成26年度は、6月11日にウィルあいちで「県民のつどい」を開催し、環境保全関係功労者の表彰式とシンガーソングライター・IUCN国際自然保護連合親善大使のイルカ氏による環境に関する講演を行いました。



「県民のつどい」環境保全関係功労者の表彰

クローズアップ

ユネスコスクールにより様々なESDの取組が行われています

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、昭和28（1953）年に創設され、(1) 地球規模の問題に対する国連システムの理解、(2) 人権、民主主義の理解と促進、(3) 異文化理解、(4) 環境教育、といったテーマについて、質の高い教育を実践する学校です。

平成27年6月現在、世界181の国と地域で約10,000校が参加しています。

県では、ESDの推進拠点であるユネスコスクールを中心として、幼稚園、小・中・高校などの学校現場において、様々なESDの取組が行われており、ESDユネスコ世界会議をきっかけに、加盟及び取組内容の拡充など、学校におけるESDの取組を促進しています。

平成27年10月現在の県のユネスコスクール加盟校は、160校、申請中1校となっています。



豊田市立藤岡南中学校の
再生可能エネルギーの取組

第3節 国際環境協力の推進

1 国際環境協力の推進【環境政策課】

昭和 40 年代の深刻な公害を克服してきた本県には、公害防止対策に関する知識、経験等の大きな蓄積があります。アジア諸国を中心に公害に悩む開発途上国は多く、それらの国々に対し、県は

(独)国際協力機構(JICA)などと提携した環境協力を進めてきました。

平成 26 年度には、中国、韓国、カナダなどから計 31 名の研修員等の受入れを行いました(表 11-3-1)。

表 11-3-1 国際環境協力の実績(平成 26 年度)

国名等	人数	期間	主な研修・調査内容
中国、モンゴル、ベトナム(大学生)	3名	2日	留学生インターンシップ(県の環境施策等の調査)
韓国(韓国環境研究所職員)	1名	1日	あいち生物多様性戦略の調査
カナダ(ケベック州政府在日事務所代表)	1名	1日	自然環境保全施策及びCOP10関連の調査
アジア・南米・アフリカ11か国(中央省庁・地方自治体行政官)	12名	1日	環境的に持続可能な都市交通計画集団研修
中国・江蘇省(省営テレビ局職員)	3名	2日	資源循環型社会形成の調査
中国・広東省(自治体行政官)	11名	3日	一般廃棄物の処理及びリサイクルの取組調査

クローズアップ

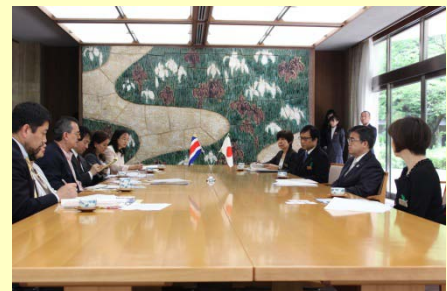
コスタリカ共和国環境エネルギー大臣が知事を表敬訪問しました

平成 27 年 4 月 28 日、コスタリカ共和国環境エネルギー大臣が、独立行政法人国際協力機構(JICA)の招きで、県の生物多様性保全の取組についてヒアリングするために来県し、大村知事を表敬訪問しました。

〈表敬者〉コスタリカ共和国 環境エネルギー大臣
エドガル・グティエレス・エスペレタ 氏
駐日コスタリカ臨時代理大使
リリアン・ロドリゲス・ヒメネス 氏 等

大村知事からは、「コスタリカ共和国は、多様で豊かな自然を資源として経済の活性化に結びつけるエコツーリズム先進国であり、生物多様性保全の取組について情報共有・意見交換をお願いしたい」との発言がありました。

表敬後、環境部長から「あいち生物多様性戦略 2020」に基づく県の取組を説明し、生物多様性の保全のあり方等に関し、活発に情報共有・意見交換を行いました。



知事表敬訪問の様子



情報共有・意見交換